

I 組織の使命

企業局では、管理部、上下水道部、交通部の3部体制のもと、水道・公共下水道・交通（軌道）の3事業を営んでいます。

企業局のミッション（使命）は、地方公営企業として、

「安全で快適な市民生活の向上や地域の発展に貢献するため、健全な経営のもと、各事業におけるサービスの提供を続けていくこと」です。

企業局が経営する各事業においては、人口の減少などによる収入の減少や施設更新需要の増加など、取り巻く環境は厳しいものとなっておりますが、将来にわたって市民が安心・満足できるサービスを安定的に提供していくために、組織が一体となって「函館市上下水道事業経営ビジョン」・「函館市交通事業経営ビジョン」に基づき健全な経営のもとで、各種施策を実施してまいります。

II 組織の基本方針

○ くらしを支える上下水道

上下水道施設の更新を計画的かつ効果的に行い、安全で良質な水の安定供給の確保や、適切な汚水処理による快適な生活環境の維持に向けた取り組みを進めます。

また、温泉を安定的に供給するとともに、温泉資源の保全に努めます。

○ 災害に強い上下水道

浸水被害を防ぐことを目的として、雨水管の整備を進めます。

また、地震や津波などの災害に対して、強靱なライフラインを目指すとともに、危機管理体制の強化を図ります。

○ 安全で信頼される公共交通

安全管理体制の強化や安全に配慮した投資を計画的に実施し、お客様が安心して利用できるよう、より一層の安全性の強化を図ります。

○ 便利で快適な輸送サービスの提供

お客様が便利で快適に利用できるよう、利用者目線に立ったサービスの提供に努めます。

○ 環境対策の推進・まちや地域への貢献

資源の有効活用などによる環境負荷の低減に取り組みます。また、人と環境に優しい路面電車として、利用の促進に向けて積極的なPR活動などに努めます。

○ 信頼される事業経営・経営基盤の強化

事業経営の効率化、人材育成や組織の活性化、情報発信の強化などの取り組みを進め、持続性のある安定した経営基盤を確立します。

Ⅲ 年度評価 総評

企業局においては、令和4年度(2022年度)も「地域住民の生活や地域の発展に不可欠なサービスの安定的な提供」という公営企業本来の役割を果たすため、組織の基本方針に沿って事業の実施に努めてまいりました。

所管する各事業については、それぞれ個別固有の課題を抱えていますが、上下水道施設の更新・耐震化、軌道・電車車両の改良など、経営ビジョンにおける主要施策を計画どおりに進めることができたと評価しております。

一方で、交通事業においては、新型コロナウイルス感染症の影響による市電の利用状況を踏まえ、運行ダイヤの改正を実施したほか、人気アニメキャラクターを用いた一日乗車券を販売するなど、経費の縮減や収益の確保を図りました。引き続き、増益につながる取り組みを着実に実行してまいります。

また、「函館市上下水道事業経営ビジョン」および「函館市交通事業経営ビジョン」においては、前期5か年(平成29年度～令和3年度)について中間評価を行い、後期5か年(令和4年度～令和8年度)の投資計画や財政計画を中心に見直しを行いました。

企業局の所管事業は、何れも長い歴史の中で市民生活を支え続けており、これからも各事業におけるサービスを将来にわたって安定的に提供していくために、引き続き各種施策や課題に対して着実に取り組んでまいります。

区 分	担当課	評価	評価の説明
1 水道事業, 公共下水道事業の取組み			
(1) 水道施設機能の保全			
<ul style="list-style-type: none"> 将来の水需要を見据えた施設規模の見直しを行い, 計画的に水道施設の更新や耐震化を進めます。 	管路整備室 浄水課	B	<ul style="list-style-type: none"> 赤川高区第1配水池および旭岡配水池の耐震診断を令和5年度(2023年度)の完了に向けて実施している。 水道管路の更新・耐震化を実施した。
(2) 下水道施設機能の保全			
<ul style="list-style-type: none"> 将来の水需要を見据えた施設規模の見直しを行い, スtockマネジメント計画に基づき計画的に下水道施設の更新や耐震化を進めます。また, 汚水管に浸入する雨水などの不明水対策を進めます。 	管路整備室 終末処理場	B	<ul style="list-style-type: none"> Stockマネジメント計画に基づき, 処理場およびポンプ場の設備更新や下水道管渠の更新・耐震化を実施した。 汚水管に浸入する不明水対策として, マンホール蓋の更新ならびにコンクリート柵から塩ビ柵への交換を行った。
(3) 温泉の安定供給			
<ul style="list-style-type: none"> 温泉供給管など温泉施設の計画的な更新を行うとともに, 温泉水位や揚湯量などを把握し, 供給量の縮減に取り組むなど温泉資源の適正利用に努めます。 	管路整備室	B	<ul style="list-style-type: none"> 温泉供給管や揚湯ポンプの更新を実施した。 温泉資源の適正利用のため, 温泉使用者に対して協力を要請し, 供給量を縮減した。
(4) 浸水対策の推進			
<ul style="list-style-type: none"> 河川や道路の整備事業などに併せて, 効率的に雨水管の整備を進めます。 	管路整備室	B	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画道路などの整備事業に伴い雨水管の整備を実施した。 浸水対策を要する区域の雨水管を整備した。
(5) 災害対応力の向上			
<ul style="list-style-type: none"> 災害時の市民生活への影響を最小限にすることを旨とし, 業務継続計画(BCP)に基づく訓練の実施などにより, 危機管理体制の実効性を高めます。 	総務課 業務課 管路整備室 浄水課 終末処理場	B	<ul style="list-style-type: none"> 函館市企業局BCPに基づき, 実地訓練や安否確認訓練を実施した。
(6) 環境負荷の低減			
<ul style="list-style-type: none"> 漏水防止対策, 小水力発電設備や消化ガス発電設備の安定的な運転などにより, 資源やエネルギーの有効活用に努めます。 	総務課 管路整備室 浄水課 終末処理場	B	<ul style="list-style-type: none"> 漏水調査を行い, 発見した漏水箇所の修繕を実施したほか, 人工衛星画像を活用した新たな調査方法を試行した。 小水力発電設備および消化ガス発電設備の安定的な運転により, 資源やエネルギーを有効活用したほか, 省エネ型機器への設備更新を行った。

区 分	担当課	評価	評価の説明
2 交通(軌道)事業の取組み			
(1) 安全性・快適性の向上			
<ul style="list-style-type: none"> 輸送の安全の確保や、人にやさしい公共交通であり続けるため、施設や車両の計画的な改良・更新を行うとともに、運輸安全マネジメントを推進し、各種マニュアル等に基づく訓練・研修を実施するなど、安全性・快適性向上の取り組みを進めます。 新型コロナウイルス感染症拡大の最中において、混雑緩和や分散乗車の目安となるよう、ICカード利用実績を活用した混雑状況公表の取り組みを継続します。 	安全推進課 施設課 養成所	B	<ul style="list-style-type: none"> 安全意識の更なる向上を図るため、事故防止研修や災害訓練等を実施した。 施設の更新については、軌道改良工事および車体改良工事は予定どおり実施したが、十字街渡り線工事については、材料の調達に時間を要したことから次年度以降に先送りとなった。 低床車両購入については台車製造に時間を要することとなったため、車体のみの購入とした。 混雑状況の公表については、引き続き取り組みを継続した。
(2) 利便性・収益力の向上			
<ul style="list-style-type: none"> 利用者の立場に立ったサービスの向上に努め、国内外の観光客への案内を強化するとともに、ICカード「ICAS nimoca」(イカすニモカ)の活用やスマートフォンで購入・利用できるデジタルチケットのPR強化などによる電車利用促進の施策を実施し、利便性・収益力向上の取り組みを進めます。 	事業課	B	<ul style="list-style-type: none"> ダイヤ改正後の運行状況の把握のための遅延状況調査を行った。 デジタルチケットの普及促進のため、ホームページを中心にスマホ乗車券のPR等を行ったほか、キャラクターを用いた乗車券の販売等により利用促進を図った。
3 健全経営・組織運営の取組み			
(1) 健全な事業経営の推進			
<ul style="list-style-type: none"> 水道事業および下水道事業に対する市民負担の公平性を確保するため、水道料金・下水道使用料等の適正な滞納整理に取り組み、収納率の向上等を図ります。 多様化・複雑化する業務や職場環境へ対応可能な職員の育成が必要であることから、職員研修を充実させ、人材の育成を図ります。 	総務課 収納・滞納整理担当	B	<ul style="list-style-type: none"> 委託業者と連携し、早期に滞納整理業務を行うことができたほか、法的措置を前提とした催告の実施や差押え、支払督促を活用した債権回収にも着実に取り組むことができ、高い水準での収納率を維持することができた。 職員研修は、コロナ禍の状況を踏まえ、オンラインを活用した研修を行うことで対応した。
(2) 効率的な組織づくり			
<ul style="list-style-type: none"> より効果的・効率的な組織体制の構築のため、的確な事務事業・組織機構の見直しに努めます。 また、長時間労働の防止やワークライフバランス(仕事と生活の調和)の実現を目指します。 	総務課	B	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度(2023年度)からのより効果的・効率的な組織体制として、上下水道部においては管路整備室および浄水課における業務執行体制および職員数の見直しを行い、交通部においては市電のダイヤ改正に伴い事業課の職員数の見直しを行った。 36協定を遵守するとともに、年次有給休暇5日の確実な取得に努めた。

区 分	担当課	評価	評価の説明
<p>(3) 経営ビジョンの適切な進行管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定した事業経営の指針である「函館市上下水道事業経営ビジョン」・「函館市交通事業経営ビジョン」の適切な進行管理を実施します。 ・水道・公共下水道・交通（軌道）の3事業を取り巻く経営環境の変化に対応するため，「函館市上下水道事業経営ビジョン」・「函館市交通事業経営ビジョン」の見直しを実施します。 	経営企画課	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「函館市上下水道事業経営ビジョン」および「函館市交通事業経営ビジョン」の実現に向けた施策の実施にあたり，進行管理手順に基づいた局内協議，経営懇話会への報告，意見聴取，結果の公表を行った。 ・前期5か年（平成29年度～令和3年度）について中間評価を行い，後期5か年（令和4年度～令和8年度）の投資計画や財政計画を中心とした見直しを実施した。